

AI搭載の戦闘ロボ、脅威に 「深層学習の父」が懸念

2023/6/29 11:43 | 日本経済新聞 電子版



ヒントンはAIを使った殺人ロボの危険性を、化学兵器にたとえた（テックイベントのCollision）

【シリコンバレー＝渡辺直樹】人工知能（AI）研究の権威で「深層学習の父」とも呼ばれるトロント大学のジェフリー・ヒントン氏は28日、カナダで開かれたテックイベントで、将来的なAI活用について「バトル（戦闘）ロボットをつくらうとしている人々がいる」と懸念を示した。「意志を持たず、（ロシアの）プーチン（大統領）のような人の言うとおりに動くようになるとしたら恐ろしい」と述べた。

ヒントン氏は長年、文章や画像を自動で生成するAI研究の基盤づくりに貢献。2018年にはコンピュータ科学のノーベル賞といわれるチューリング賞を受賞した。対話型AI「Chat（チャット）GPT」を開発した米新興企業オープンAIの開発者など、第一線で活躍する多くの人材を育ててきたことでも知られる。

トロントで開かれたイベント「Collision（コリジョン）」に登壇し、「AIは善良な人に訓練されれば良いバイアスがかかるし、プーチンのような悪い人間に訓練されれば悪いバイアスがかかる」と指摘した。

さらに「私が本当に心配しているのは戦闘ロボットだ」と強調。AIロボが、技術力を持つ国家によって軍事侵攻などに利用されることへの警鐘を鳴らした。

ヒントン氏は「人々は戦闘ロボットを使用し、それがどれほどひどいものかを目の当たりにすることになる。第1次世界大戦後の化学兵器のように、（AI兵器が実際に）使用された後でそれを禁止する国際条約が結ばれるかもしれない」と指摘した。

そのうえで「どうすれば（AIが）悪より善になる可能性が高くなるのか実は私にはプランがない」としつつ、「悪い副作用を緩和し、（人類）存亡の危機を真剣に心配していかなければならない」と締めくくった。

【関連記事】

- ・ [OpenAI、研究者の供給源はグーグル 著名論文著者も](#)
- ・ [AIに「人類絶滅リスク」 ChatGPT開発トップら共同声明](#)
- ・ [AI研究の第一人者がGoogle退職 生成AIに警鐘](#)

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.